



# 育成したい資質・能力の視点で 「特別活動」を捉え直す

すべての学校で日常的に行われている特別活動。

それを、教科のカリキュラムと同様に、生徒に育みたい資質・能力の視点で捉え直すことで、

生徒のキャリア形成に寄与する取組へと深化させることができます。

そのために、特別活動をどのように設計していけばよいのでしょうか。

全体計画の立て方、教科・科目や総合的な探究の時間と連動した年間指導計画の構成の仕方、

特別活動の中核といえるホームルーム活動の指導案を生徒のキャリア形成を意識しながらどう考えるべきか、

文部科学省の長田 徹氏に研修会を実施していただきました。

そこで語られた特別活動のカリキュラム・デザインについて

東京・沖縄で行った各研修でのレポートとともにお伝えします。



## Special Lecture

### 特別活動を要として カリキュラムをデザインする 8ページ

Step1 全体計画を立てる

Step2 年間指導計画を立てる

## Special Lecture

### ホームルーム活動を 特別活動の中核として考える 14ページ

Step3 HR活動の指導案を作成する

取材・文／長島佳子(7P～13P)、松井大助(14P～17P)

撮影／竹内弘真(10P～13P)

写真提供／青森県立八戸東高校、関東第一高校、岡山県立津山商業高校、山形県立山形北高校(7P)

研修会場／東京・沖縄

研修参加者／東京：安東真美先生(岡山県立和気閑谷高校)、

井上 文先生(山形県立山形北高校)、小林光一先生(東京・順天中学校高校)、

館 龍之介先生(北海道長万部高校)、田中愛子先生(大阪市立東高校)、

長谷川弘和先生(宮城県利府高校)、

平川裕美子先生(福岡県立大牟田北高校)、

牧野美穂先生(岡山県立津山商業高校)、山崎健太先生(新潟県立長岡高校)、

横山北斗先生(東京・関東第一高校)

沖縄：おきなわ教育ラボの研修会にご参加の先生方



講師  
文部科学省／国立教育政策研究所  
長田 徹氏

# 特別活動を要として カリキュラムを デザインする

まずは学校の教育活動全体の中で、特別活動をどのように位置付け、どんな活動を中心にして高校生活を構成していくのか、特別活動の全体計画と年間指導計画の立て方について考察します。

特別活動の構成内容や  
育成する資質・能力を把握する

特別活動とは周知のとおり、「ホームルーム活動」(以下、HR活動)と「生徒会活動」という二つの活動と、「学校行事」で構成されている(図1)。

「どの学校でも、水や空気のような存在として、あまり目標や内容を意識されていなくてもいいかもしれません。しかし学習指導要領では、各教科同様、『○○の見方・考え方を働かせ』という文言からはじまる目標があり、育成を目指す資質・能力として、『知識及び技能』『思考力、判断力、表現力等』『学びに向かう力、人間性等』の三つの柱に沿って明記されています(図2・図3)。そして、目標達成に向け、各活動・行事の内容等を図1のように規定しています。しかし、実際にはHR活動が行事の準備に充てられるなど、これらを意識している高校はどれくらいあるでしょうか」

(長田 徹先生・以下同)

特別活動の見方・考え方は、図2のように、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という三つの視点をベースとしたもの。生徒のキャリア形成に他ならない。また、特別活動の特質として、「集団活動」と「実践的な活動」が挙げられる。教科は一人で学ぶ場面もあるが、特別活動は集団活動が原則中心だ。また、教科では学んだことで課題解決の仮説を立てるところまでで終わることもあるが、特別活動では実践をとまなう(実践への意欲付けを含む)取組が欠かせない。さらに学習過程として、集団としての「合意形成」を進める活動形態と、個人として自己の在り方生き方を「意思決定」していく活動形態がある。(いずれも18ページ以降を参照のこと)

特別活動で自校の生徒に  
育みたい資質・能力を具体化

特別活動のカリキュラムを設計するにあたって最も大事なものは、各学校の生徒の現状を見取り、身に付けさせたい資質・能力を具体化していくことだと長田先生は語る。

図1 特別活動を構成するもの

## 特別活動

### ● ホームルーム活動 (12内容項目)

- (1) ホームルームや学校における生活づくりへの参画
  - ア ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決
  - イ ホームルーム内の組織づくりや役割の自覚
  - ウ 学校における多様な集団の生活の向上
- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
  - ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成
  - イ 男女相互の理解と協力
  - ウ 国際理解と国際交流の推進
  - エ 青年期の悩みや課題とその解決
  - オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
  - ア 学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解
  - イ 主体的な学習態度の確立と学校図書館等の活用
  - ウ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成
  - エ 主体的な進路の選択決定と将来設計

合意形成

意思決定

### ● 生徒会活動 (3内容)

- (1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営
- (2) 学校行事への協力
- (3) ボランティア活動などの社会参画

合意形成

### ● 学校行事 (5種類)

- (1) 儀式的行事
- (2) 文化的行事
- (3) 健康安全・体育的行事
- (4) 旅行・集団宿泊の行事
- (5) 勤労生産・奉仕的行事

合意形成

意思決定

※特別活動の「合意形成」「意思決定」についての詳細は18ページ以降を参照



図2 特別活動の目標（前半部分）

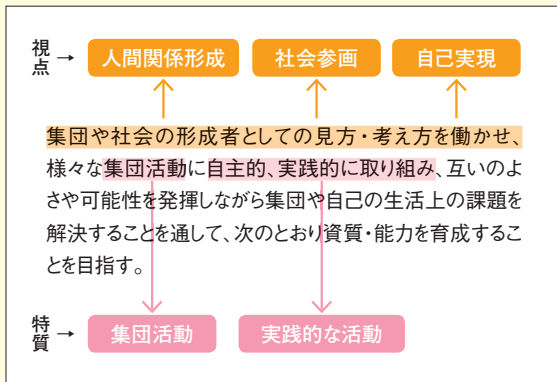


図3 特別活動の目標  
（育成を目指す資質・能力の三つの柱）

#### ●知識及び技能

多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。

#### ●思考力、判断力、表現力等

集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。

#### ●学びに向かう力、人間性等

自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方について自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

※図2・3：学習指導要領第5章第1より

図4 事前・事後指導の役割

学習のプロセス		考え方
事前指導	事前学習	体験活動の動機づけや意欲等を高め、学びや体験活動の質を向上させる学習活動
	直前学習	体験活動を安全に行うために最低限必要な学習活動（集会、マナー講座、アボ取りなど）
体験活動		例）就業体験活動（インターンシップ）等
事後指導	直後学習	体験活動の成果を内面化、共有化させるために、最低限必要な学習活動（感想文、事業所へのお礼の手紙など）
	事後学習	体験活動の成果を定着化させ、より深化や広がりをもたせる学習活動

「自校の生徒の課題に見合った育成目標を、『知識及び技能』であれば『身に付いている（～について理解している）』、『思考力、判断力、表現力等』であれば『～ができる（～している）』、『学びに向かう力、人間性等』であれば『～しようとしている』などの言葉で置き換えて具体的に設定していきます。

目標はともすると抽象的な表現になりがちですが、それでは、生徒が『何ができるようになればいいのか』が理解できなかつたり、教員間でゴール共有が難しくなります。人によって受け取り方が変わる表現では、活動や成果に対する適正な評価ができず、その後の改善につながりません。カリキュラム・マネジメントの基本はPDCAを回して改善していくことで、特別活動のカリキュ

ラムデザインも同様です」

理想的には各年度の年間指導計画を立案する際に、特別活動についても資質・能力を具体化して、目標や学習過程を意識して具体的な活動を検討していくことだ。しかし、既に決まっている特別活動の内容や種類においても、教員が生徒の社会的・職業的自立に向けた資質・能力を意識していくことで、キャリア教育としての意義が深まっていくはずだ。

さらに長田先生は、特別活動は教科・科目と往還的な関係にあることを意識してほしいと言う。

「特別活動は実践的な活動である」と

教科・科目との往還も踏まえて特別活動をデザインする

述べましたが、教科・科目での学びを実際の場面で活用できる時間であるとともに、特別活動での学びが教科学習の土台となるのです」

例えば、文化祭や修学旅行、就業体験などの学校行事でも、教科等で学んだ内容とのつながりを生徒が見いだせれば、行事の質を一層向上させることができる。育成したい資質・能力が特別活動と連動する教科があれば、特別活動で実践した成果に基づいて教科学習をすることで、双方の学びが深化し広がりをもつことができるのだ。その意味で、学校行事など大きな活動で必要となる事前・事後指導の主たる役割（図4）を、直前・直後学習と誤解せずに正しく捉えて全体の指導計画を立てていくことが大切だと長田先生は語る。

これらの内容を体感してもらうために、小誌は今年の4月に、有志の先生に参加いただき、長田先生による研修会を実施した。カリキュラム作成は①「全体計画の作成」②「年間指導計画の作成」③「単元の指導案作成」の3ステップから成る。まずは東京で、ステップ1・2、さらに沖縄でステップ3の研修を行った。

研修では便宜上、条件設定された架空の高校の2学年を対象として、中心的な学校行事をメインにした、「全体計画」「年間指導計画」、事前・事後指導としての「HR活動の指導案」を作成してもらった。次ページからその研修の様子をレポートしながら、特別活動のカリキュラムデザインのポイントについて解説していく。

# ワークシートに沿って全体計画を練っていく

ダウンロード可 ※ダウンロードできるのは未記入のフォーマットです。

## 全体計画を立てる

育成したい資質・能力の視点で、  
特別活動のカリキュラムを捉え直す

長田市立 令和 高等学校 特別活動全体計画		
<b>我が校の生徒の強み</b> <input type="checkbox"/> 素直で活動に積極的 <input type="checkbox"/> 進学(学習)への意欲は強い <input type="checkbox"/> 品性向上、互いを認め合えることができる	<b>我が校の生徒の弱み</b> <input type="checkbox"/> 指示待ち、心向付・継続力が低い <input type="checkbox"/> 自己肯定感が低い → 180-200% <input type="checkbox"/> 体験が少ない(他者と関わりが弱い)	
<b>我が校の学校教育目標</b> <input type="checkbox"/> 自らの力で考え、働き、地域に貢献		
<b>特別活動で2年生に身に付けさせたい力</b> <input type="checkbox"/> 主1年小生、6/10月期に各自に <input type="checkbox"/> 自己肯定感、何かに挑戦する経験 <input type="checkbox"/> 他者を認める力、対話、交流、受ける		
<b>事前指導(1年)</b> <input type="checkbox"/> 地域の人との交流(講演、見学)	<b>中心的な学校行事(2年)</b> <input type="checkbox"/> “長田っ子未来サブリ” 夏休み、学習、夏休み、 夏休み中(未来世代)を対象	<b>事後指導(2年)</b> <input type="checkbox"/> 活動のまとめ、表彰
<b>事前指導(2年)</b> <input type="checkbox"/> 夏休み3日(作業計画、支援計画)		<b>事後指導(2年)</b> <input type="checkbox"/> 発表会
<b>事前指導(2年)</b> <input type="checkbox"/> アンケート調査(二つの地域観)		<b>事後指導(3年)</b> <input type="checkbox"/> 3年間の学びのまとめ、発表会
<b>我が地域の強み</b> <input type="checkbox"/> 卒業生多い、地域の力が発揮しやすい	<b>我が地域の弱み</b> <input type="checkbox"/> 少子高齢化	

「素直で活動には積極的だけど、指示待ちなのはうちの学校でもよくある。単純活動は積極的だけど、複雑になると消極的に」  
「主体性と自己肯定感の低さはどの学校でも共通の課題だね」

## Check!

まず、生徒の  
現状確認！

条件設定の生徒像からどんな課題をもった生徒なのか掘り下げる。この見取りを誤ると、目標設定がズレてしまう。

研修では、前ページのレクチャーを受けた10名の先生方が、2班に分かれて架空に設定した各学校の特別活動を計画。最初に全体計画の策定からスタートしました。



生徒の実態を捉えて、  
ワークシートに  
基づいて考察する

全体計画の策定にあたり、事前に用意された上記のワークシートを利用。A班・B班に分かれた各5名の先生たちがワークシートの流れに沿って全体計画を練った。研修用に設定された架空の学校として、右図のような学校環境のほか、現状の生徒像や地域の状況などの子細が条件付けられている。

その条件に基づき、自校の生徒の強み・弱みを具体的に想定し、学校全体の教育目標(学校全体の特別活動の目標)、特別活動で2年生に身に付けさせたい力、そのために実施する中心的な学校行事と、事前・事後指導を各3コマ以上策定する。中心となる学校行事は、既存の文化祭などでも新たに

【研修での場面設定】  
環境・条件  
地方都市・長田市  
長田市立〇〇高校  
(普通科+商業科)  
生徒数/1年から3年は6学級、  
各学年210人程度  
※その他、生徒像や地域の状況が細かく  
仮設定されている





## Check!

### 対象学年で 身に付けさせたい具体的な 「資質・能力」の設定

設定した生徒の課題を解決するために学習指導要領や解説を参考に、2年生の特別活動で身に付けさせたい力を、9ページの図2・3に沿う内容で、自校の生徒に向けて具体化する。

- ① 身に付けさせたい力は、特別活動の三つの視点と合致しているか?
- ② 身に付けさせたい力は「資質・能力」の三本柱に当てはまるか?

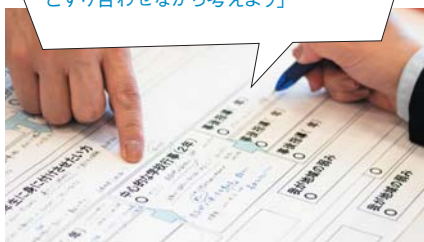


「うちの学校でも職員会議で話し合って七つのチカラを設定したが、個々の授業に反映するのは簡単ではないですね」  
「特別活動で成功体験を積ませて自己肯定感を育てあげたいね」

「3年間での長期の目標を具体的なワードにするのは結構難しい。先に2年生で身に付けさせたい力から考えた方がわかりやすいかも」



「生徒の成長を家庭や地域も評価できるよう、地域を巻き込んだわくわくするプロジェクトにしよう!」  
「行事の面白さに引っ張られすぎないように、特別活動の目標や資質・能力とすり合わせながら考えよう」



／ 長田先生からのアドバイス ／

### 自校で全体計画を作るときは

**目** 前の生徒を見取り、育みたい資質・能力はどんな力かについて、まずは学年団で対話することから始めてみてはどうでしょう。学校行事は前年度踏襲が多いのが実情ではないでしょうか。その場合も、既存の行事を資質・能力の視点で捉え直せば、同じ行事でもまったく違って見えてくるかもしれません。また、キャリア教育として生かすことができるかもしれません。文化祭や体育祭は大人になっても楽しい思い出として記憶に残っていますが、資質・能力を追わずに行事を実施すると、その後の人生につながっているかは疑問です。楽しい思い出に留まらない学びにするために、目の前の生徒たちの姿をよく見ましょ。

創意工夫されたものでもどちらでもいい。事前・事後指導は特別活動以外の教科や総合的な探究の時間(以下、総合)でも構わず、1学年から3学年までの長期で捉えることとしている。

先生たちは架空の生徒たちを想像しながらも、各々の自校の生徒と照らし合わせたり、自校で取り組んでいる教育目標の立て方や学校行事について共有しながら、話し合いを進めていた。行事を考えるケースのため、自校では実現できていないが温めていたアイデアを出す先生もいた。行事ありきで考えると、資質・能力に結びつかなかったり、資質・能力の言葉が抽象的で具体的な活動に落とし込みにくかったりと、ワークシート上を行ったり来たりしながら、50分間で全体計画を作成し終えた。

## Check!

### 全校生徒を対象とした 「全体目標」を立てる

学校で設定している校訓などは抽象度が高いため、どんな生徒に育ってほしいかを生徒の強み・弱みを踏まえて具体的な言葉にしていこう。



## Check!

### 中心となる特別活動と、 事前・事後の 指導の流れを作成

身に付けさせたい力を育むための軸となる活動を、2年生の学校行事で実施する仮定で設計。9ページの図4のポイントに留意して事前・事後指導の単元も設定する。

- ① 事前・事後指導が、中心的な学校行事の下請けになっていないか?
- ② 事前・事後指導がどの教科や活動の、どんな単元・題材で何時間かけるか具体的にになっているか?

## 月ごとに実施する内容を当て込んでいく

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自由設定												
		事前指導			中心的活動					事後指導		

### 年間指導計画を立てる

## ホームルーム活動を「特活の中核」として機能させる

### Check!

#### 中心となる学校行事を何月に実施するか配置

まず、中心となる行事をいつ行うかを置いてみる。その時期によって、関連する事前・事後のHR活動の議題や題材、各教科の単元を置くべき時期が見えてくる。

### Check!

#### 事前・事後指導を何月に実施するか配置

事前・事後指導は、特別活動の動機付けや定着化のための学習として、HR活動、教科・科目や総合でその目的に合致している単元があればつなぐ。

「身に付けさせたい力は主体性、自己肯定感、他者を感じる力だから、事前・事後指導にもどれが当てはまるかマーケティングしていこう!」

「商店街で実施するリアルインターンシップが中心的行事なので、文化祭での活動や教科の学びもつながるから、それらを経て10月ごろに実施したいですね」

## 各教科・科目、総合的な探究の時間など月次の計画を考察する

前ページの全体計画で立てた学校行事を中心に、資質・能力の育成に向けて事前・事後にHR活動を中心に教科横断で取り組む年間指導計画をつくる。上図のような月次別の一覧表に、月ごとに実施する内容を当て込んでいく。

「実は研修の班分けは、意図的に担当教科を分散しました。各先生が自分の教科で育成している力のなかで、今回立案した中心的な行事に結びつけられるものがあることを期待しました」

また、長田先生が特に意識してほし

### プログラム作成の条件

- 1 中心となる学校行事（体験活動）は既存の体育祭、文化祭、就業体験活動（インターンシップ）でも、創意工夫されたものでもよい
- 2 事前・事後指導は入学から卒業までの長期にわたって捉え、その中からポイントとなるプログラムを、事前・事後指導として3コマ以上作成する
- 3 その事前・事後指導の教育課程上の位置付けは、特別活動、教科・科目等どれを想定しても構わない
- 4 地域の実態に合った特色ある取組を模索する
- 5 発達の段階を十分に考慮する

### 【年間指導計画の条件設定】

前ページで策定した中心的な学校行事と、事前・事後指導をいつ、何の単元で行うかを、年間指導計画として一覧に作成。事前・事後のHR活動や教科との往還がポイントになります。



## 完成した年間指導計画を振り返る

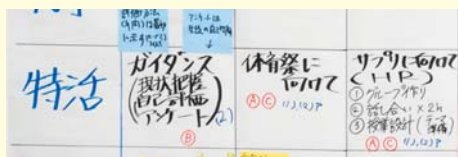
### 「地域の子どもたちへの学習支援」を計画した A班の先生たちの感想

「生徒に身に付けさせたい資質・能力は普段は高校3年間で考えるので、2年生という中間地点で考えるのが大変でした」  
「身に付けさせたい力を抽象的な表現から具体化していくときに、もれてしまうニュ

アンスがあり、もらさないようにすると膨大になるため、取捨選択が大事ですね」  
「計画した行事と教科とのつながりが重要なポイントなので、もっと時間をかけて詰めて考えたかったです」



活動を評価するところまでを  
年間指導計画に盛り込んでいる



A班は、設定した行事を通して生徒たちが自己評価する評価方法も年間指導計画にちゃんと書いていましたね。また、事前・事後指導の複数のHR活動が、12内容項目(8ページ・図1)のどれに当てはまるかを明記していたのもよかったです。

### 「商店街でのリアルインターンシップ」を計画した B班の先生たちの感想

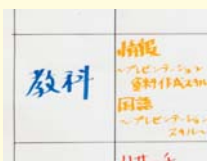
「事前・事後指導の組み合わせが大変と想像していましたが、身に付けさせたい力を具体化していくことに最も時間がかかりました」  
「身に付けさせたい力を何度も練り直したつもりでしたが、行事の内容を詰めるうち

に、そちらを重視してしまい、本当に資質・能力とつながっていたかが不安でした」  
「教科では資質・能力は普段一人で考えますが、みんなで本音で話し合いながら考えたのがよかったので、自校でも学年会などでできるといいと思いました」



資質・能力や事前・事後指導の  
題材が具体的に明記されている

B班は、身に付けさせたい資質・能力を「～できる」「～しようとする」など具体化していたので、生徒と共有しやすくなっています。また、教科で実施する事前・事後指導の題材も具体的だったのもよかったと思います。



2年生のリアルインターンシップ  
「自分の力で物ごとを成し遂げる」  
「自分の意見を相手に伝える」  
「自分と違う意見を受けとめることができる」  
「考えたことと活動がどうつながるのか言語化できる」

／ 長田先生からのアドバイス ／

### 自校で年間指導計画を作るときは

現

在計画している特別活動をゼロリセットする必要はなく、今まで継承してきた学校行事などは宝です。それらを捉え直して、HR活動を中核に教科・科目等を越えて、意味付けしていくことから始めてみましょう。

また、事前・事後指導も本来は特別活動のために行うのではなく、既に教科や総合でやっていることを資質・能力の切り口で特別活動と紐づけて、つなげていけばよいと思います。そのために今回の研修のように教科横断で教員が集まって、年間指導計画を作る機会をもつとよいのではないのでしょうか。

いと語るのが、9ページや図4で示したように、事前・事後指導として行うHR活動や教科・科目、総合が行事の下請けにならないようにすることだ。

「体験活動を安全に行う直前の学習や、成果を共有する直後の学習も必要ですが、資質・能力につながるのにはもったいない。HR活動の時間は単なる行事の準備や片付けの時間にしてはなりません。HR活動の内容項目をよく見ていただき(8ページ・図1)、むしろ特別活動全体の基盤はHR活動にあるという捉え方をしてほしいです」

次ページから、HR活動の重要性について解説し、各班が事前・事後指導として設定したHR活動の指導案作成(ステップ3)を、沖繩の先生たちに実践してもらった様子をレポートする。



Check!

縦軸の項目は  
自由に設定

横軸に4月から3月までの月名を入れ、縦軸は自由に設定。全体計画で立てた中心的な行事と事前・事後指導が網羅できればよい。

「学校行事が中心となるのでそれを真ん中に。関連する事前・事後指導には、HR活動と教科・科目、総合があるけど、生徒会はどうしよう?」

